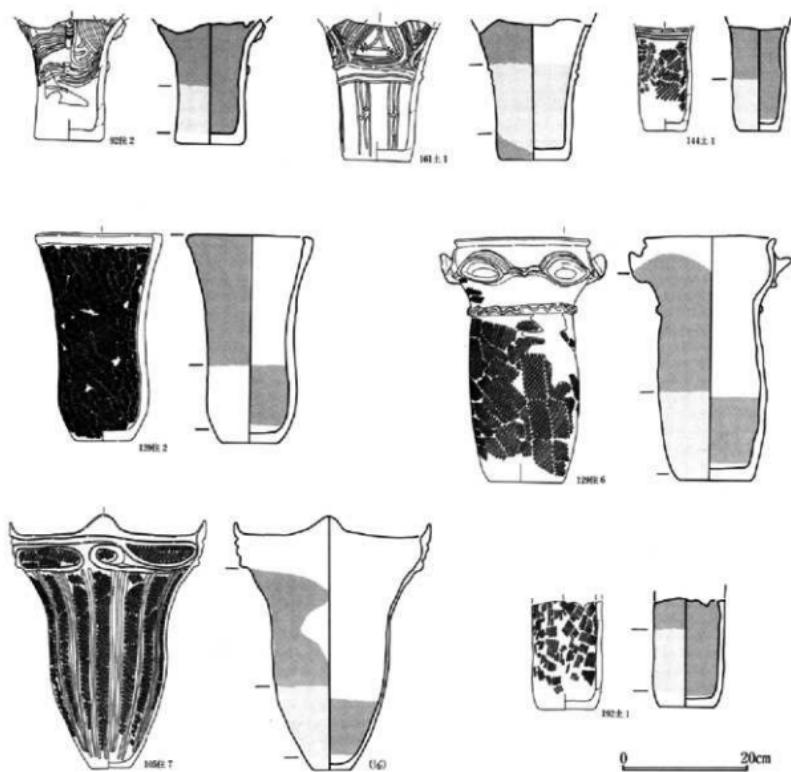


第480図 薫の変色部分と使用復原例 (外山・1992)

15. 土器に認められる変色部分について

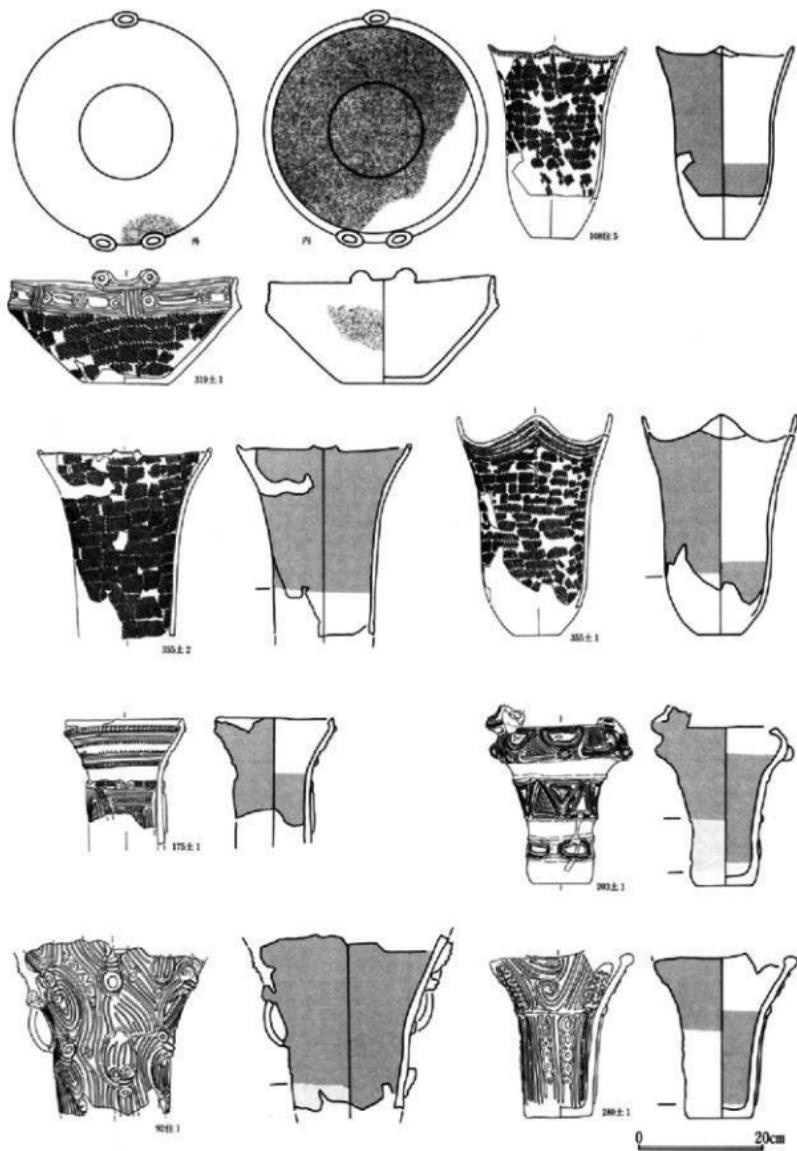


第481図 繩文土器に認められる変色部分



第482図 繩文土器の変色部分から復原した使用方法（武藤・小林他1978）

III まとめと考察



第483図 繩文土器に認められる変色部分

16. 平安時代の集落変遷について

16. 平安時代の集落変遷について

本遺跡周辺ではいくつかの平安時代の遺跡が調査されているが、一番近いのは同じ前橋伊香保線の建設により調査された北へ130m程の地点に位置する金竹西遺跡である。同遺跡では古墳時代後半から平安時代前半の集落80軒以上が調査されており、古墳時代後半のもの15軒、古墳時代末から奈良時代前半のもの23軒、奈良時代中頃から後半のもの22軒、奈良時代末から平安時代前半のもの17軒が検出されている。道路部分だけの調査であり、集落の中に細長い大きなトレンチを入れたようなものであるが、そこから古墳時代後半にはじまるこの集落の盛衰が看取できる。最も興味深いのはその終末である。9世紀代のものはあるものの10世紀代のものは1軒もない。10世紀になるとそれまでそこにいた人々はどこか別の場所へ行ってしまい誰もいなくなってしまうのである。そこよりも更に北に位置する同じ道路建設により調査された熊野遺跡でも9世紀末から10世紀初頭になると住居数は激減し、やがて姿を消してしまうという全く同様の現象が見える。その人々が移動した別の場所こそが今回報告する本遺跡なのでないかと考えている。

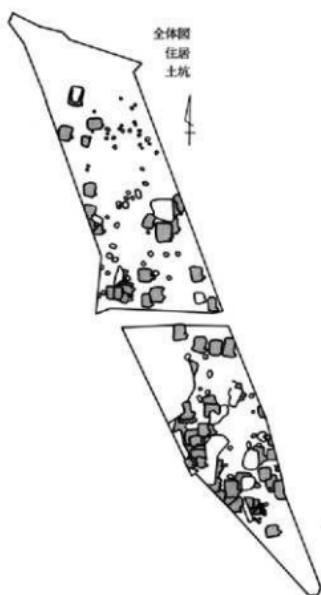
本遺跡では平安時代の後半、10世紀半ばに近い前半になってはじめて住居が営まれる。この時期を第Ⅰ期とする。それ以前は小ピットが数基ある程度であり、掘立柱建物跡になりそうなものも確認されていない。10世紀前半段階に属するものは26・48・58・67号住居跡の4軒が確認されているだけである。その配置を見ると真ん中の現道を挟んで北側に2軒、南側に2軒となっている。しかもその間隔はほぼ一定して並んでいるように見える。この遺跡での礎を築いた拠点的な住居と考えられる。カマドは3軒は東壁南寄りに作られており、確認できなかった26号住居跡も東壁南寄りと考えられる。67号住居跡のように縦長のものもあるが、それ以外は隅丸方形かやや横長となっている。

次の10世紀後半になると住居が激増する。この時

期を第Ⅱ期とする。この時期に属すると考えられる住居跡は31軒が確認された。全体の分布状況を見ると調査区の北部は隙間が開くが、それ以南はかなり目一杯に広がっているのが分かる。中央西部の陣場岩屑なだれの高い部分には擾乱もあり、不明な点もあるが、ほぼそこを取り巻くように環状に分布しているように見える。その中には7ヶ所の重複があり、2~3軒が5ヶ所、1ヶ所だけであるが、多いもので8軒、この場所は間の遺物が少なく時期判定不能の1軒を挟み、その隣まで入れると10軒の重複となり、次いで多いのが4軒1ヶ所の重複である。

現在の土器編年観でいくと一番多いところでは50年位の間に1ヶ所に8軒から10軒が重複していることになり単純に割ると5年で建て替えていくことになってしまう。さらに11世紀代のものも含めると13軒以上の重複となる。最大で17~18軒程度が同時に存在していた可能性がある。また、重複関係から建て替えの動きを見ると52・51号住居跡のように西→東、40・39・38号住居跡のように東→西の東西の動きのあるものと71・72号住居跡のように北→南、77・45・46号住居跡のように南→北の南北の動きのあるものと認められる。重複の激しい部分ではその両者の動きが重なる部分もある。カマドの位置は第Ⅰ期と同様で東壁の南寄りのものがほとんどである。72号住居跡は南壁西寄りの可能性がある。

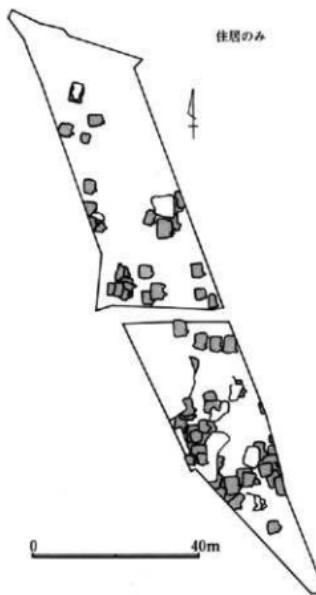
さらに11世紀代になるとややバラける傾向があるが依然として多い。この時期を第Ⅲ期とする。第Ⅲ期に属すると考えられるものは22軒が確認された。第Ⅱ期では北部に空白地帯があったが、その部分にも住居が再び出現する。重複部分は7ヶ所あり、一番多いところで4~5軒で2ヶ所、その他は2から3軒で5ヶ所である。10世紀後半で重複の激しかった部分の南西に一部重なるところもある。54・55・56・82・86号住居跡のように少しづつ位置をずらしながらもほとんど同じ場所に建て替えているところもある。別に空いている場所があるにも関わらずそこを選地しているのはそこが先祖伝来の土地であるとか、何か特別な意味があったものと思われる。



第484図 平安時代遺構配置図

23・85・24・75・80号住居跡のように東→西にずらしながら同規模で建て替えているところ、60・59号住居跡のように北→南に移動しているところもある。この動きにも何かしらの意味があるものと思われる。80号住居跡のみ主軸がずれるので、カマドの位置も南壁の西寄りになっているが、その他は全て東壁の南寄りに付けられている。80号住居跡の主軸がずれているのは11世紀代でも後半に属するものと思われる時期的な問題もあるのかもしれない。56号住居跡のように縦長のものもあるが、ほとんどは隅丸方形もしくは横長となっている。

全体を通して見た場合でも北部はやや住居が粗になり、その部分には土坑やピットが集中している。見ようによつては円形に配置されているようにも思える。掘立柱建物が立つ可能性も完全には否定できないが、比較的丁寧に調査したがそうなるものは確認

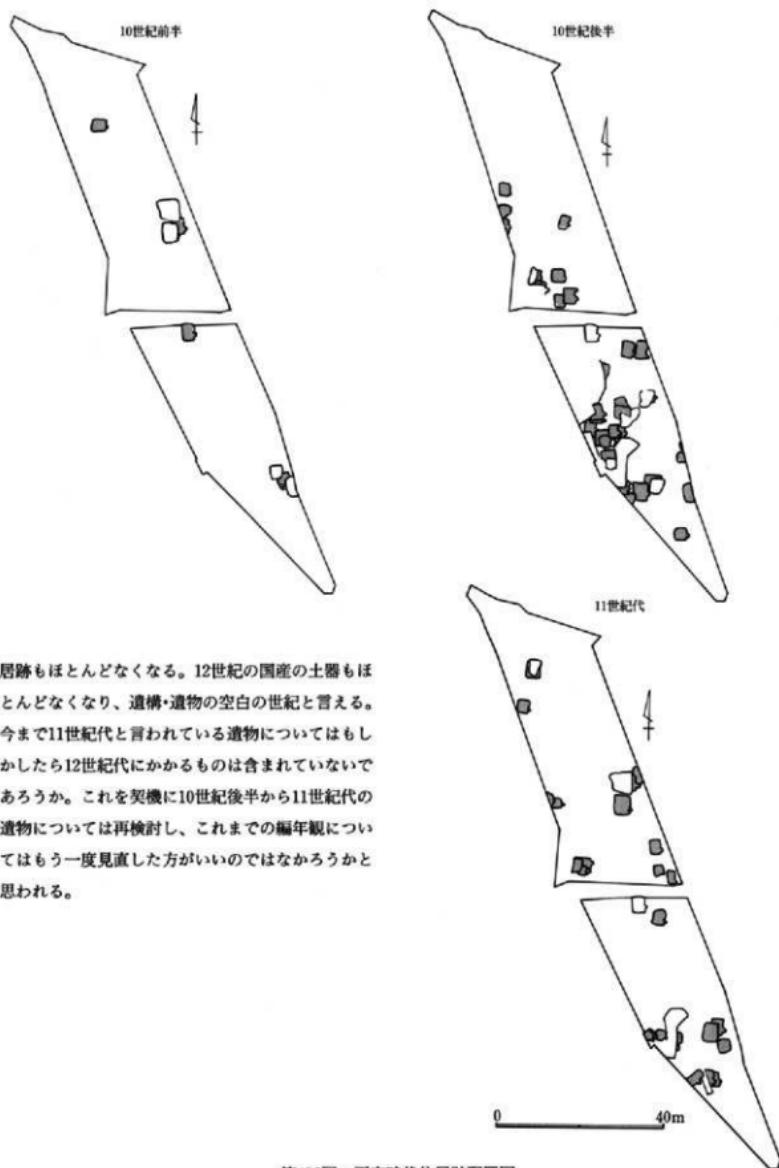


第485図 平安時代住居跡配置図

できなかった。土坑の群の中には隅丸長方形の土坑もあるので、その場所は墓域となる可能性も考えられる。いずれにしても通常の住居跡とは区別されるような空間であったことが伺える。

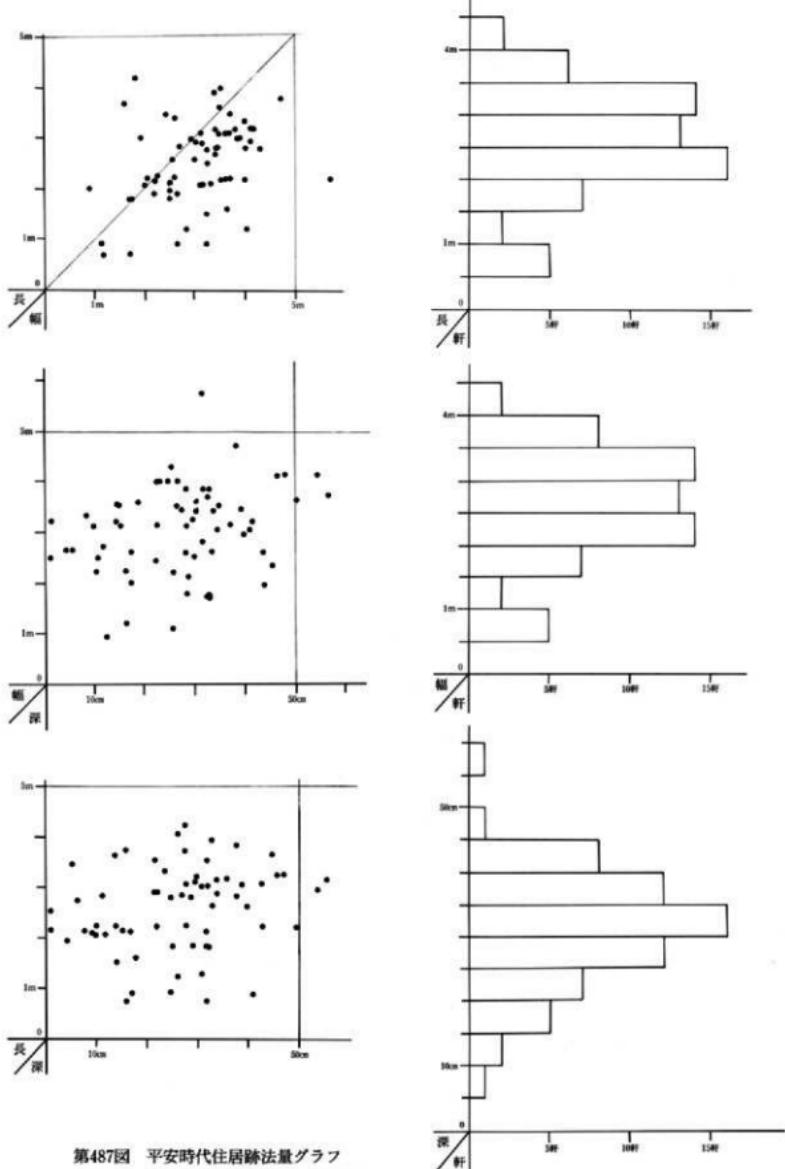
住居跡については重複が激しく場所によっては地山と同じか地山の方が狭いくらいの所もあり、その帰属する時期を決めるに当たっても明確に判別できないものが多くあった。出てきた遺物、特に土器のこれまでの編年観に基づいて時期判定を行った。しかし、県内でもこの時期のものはかなりたくさん出土しているようでも比較的少ない。

これまで11世紀代の住居跡については1つの集落を調査してもせいぜい数軒程度であり、この遺跡のように何10軒もの多くのものがまとまって出土した例はあまり聞いたことがない。次の12世紀になると住居の形態も大きく変化するものと思われ、堅穴住



第486図 平安時代住居跡配置図

III まとめと考察



第487図 平安時代住居跡法量グラフ
(長さ、幅、深さ、数量相関図)

16. 平安時代の集落変遷について

住居	灰軸陶器・土器	須恵器
10 C 前半	1 2 3	1 2 3
4 B 住	4 5 6 7	4 5 6 7
5 B 住	8 9 10 11	8 9 10 11
6 B 住	12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 269 270 271 272 273 274 275 275 276 277 278 279 279 280 281 282 283 283 284 285 285 286 287 287 288 288 289 289 290 290 291 291 292 292 293 293 294 294 295 295 296 296 297 297 298 298 299 299 300 300 301 301 302 302 303 303 304 304 305 305 306 306 307 307 308 308 309 309 310 310 311 311 312 312 313 313 314 314 315 315 316 316 317 317 318 318 319 319 320 320 321 321 322 322 323 323 324 324 325 325 326 326 327 327 328 328 329 329 330 330 331 331 332 332 333 333 334 334 335 335 336 336 337 337 338 338 339 339 340 340 341 341 342 342 343 343 344 344 345 345 346 346 347 347 348 348 349 349 350 350 351 351 352 352 353 353 354 354 355 355 356 356 357 357 358 358 359 359 360 360 361 361 362 362 363 363 364 364 365 365 366 366 367 367 368 368 369 369 370 370 371 371 372 372 373 373 374 374 375 375 376 376 377 377 378 378 379 379 380 380 381 381 382 382 383 383 384 384 385 385 386 386 387 387 388 388 389 389 390 390 391 391 392 392 393 393 394 394 395 395 396 396 397 397 398 398 399 399 400 400 401 401 402 402 403 403 404 404 405 405 406 406 407 407 408 408 409 409 410 410 411 411 412 412 413 413 414 414 415 415 416 416 417 417 418 418 419 419 420 420 421 421 422 422 423 423 424 424 425 425 426 426 427 427 428 428 429 429 430 430 431 431 432 432 433 433 434 434 435 435 436 436 437 437 438 438 439 439 440 440 441 441 442 442 443 443 444 444 445 445 446 446 447 447 448 448 449 449 450 450 451 451 452 452 453 453 454 454 455 455 456 456 457 457 458 458 459 459 460 460 461 461 462 462 463 463 464 464 465 465 466 466 467 467 468 468 469 469 470 470 471 471 472 472 473 473 474 474 475 475 476 476 477 477 478 478 479 479 480 480 481 481 482 482 483 483 484 484 485 485 486 486 487 487 488 488 489 489 490 490 491 491 492 492 493 493 494 494 495 495 496 496 497 497 498 498 499 499 500 500 501 501 502 502 503 503 504 504 505 505 506 506 507 507 508 508 509 509 510 510 511 511 512 512 513 513 514 514 515 515 516 516 517 517 518 518 519 519 520 520 521 521 522 522 523 523 524 524 525 525 526 526 527 527 528 528 529 529 530 530 531 531 532 532 533 533 534 534 535 535 536 536 537 537 538 538 539 539 540 540 541 541 542 542 543 543 544 544 545 545 546 546 547 547 548 548 549 549 550 550 551 551 552 552 553 553 554 554 555 555 556 556 557 557 558 558 559 559 560 560 561 561 562 562 563 563 564 564 565 565 566 566 567 567 568 568 569 569 570 570 571 571 572 572 573 573 574 574 575 575 576 576 577 577 578 578 579 579 580 580 581 581 582 582 583 583 584 584 585 585 586 586 587 587 588 588 589 589 590 590 591 591 592 592 593 593 594 594 595 595 596 596 597 597 598 598 599 599 600 600 601 601 602 602 603 603 604 604 605 605 606 606 607 607 608 608 609 609 610 610 611 611 612 612 613 613 614 614 615 615 616 616 617 617 618 618 619 619 620 620 621 621 622 622 623 623 624 624 625 625 626 626 627 627 628 628 629 629 630 630 631 631 632 632 633 633 634 634 635 635 636 636 637 637 638 638 639 639 640 640 641 641 642 642 643 643 644 644 645 645 646 646 647 647 648 648 649 649 650 650 651 651 652 652 653 653 654 654 655 655 656 656 657 657 658 658 659 659 660 660 661 661 662 662 663 663 664 664 665 665 666 666 667 667 668 668 669 669 670 670 671 671 672 672 673 673 674 674 675 675 676 676 677 677 678 678 679 679 680 680 681 681 682 682 683 683 684 684 685 685 686 686 687 687 688 688 689 689 690 690 691 691 692 692 693 693 694 694 695 695 696 696 697 697 698 698 699 699 700 700 701 701 702 702 703 703 704 704 705 705 706 706 707 707 708 708 709 709 710 710 711 711 712 712 713 713 714 714 715 715 716 716 717 717 718 718 719 719 720 720 721 721 722 722 723 723 724 724 725 725 726 726 727 727 728 728 729 729 730 730 731 731 732 732 733 733 734 734 735 735 736 736 737 737 738 738 739 739 740 740 741 741 742 742 743 743 744 744 745 745 746 746 747 747 748 748 749 749 750 750 751 751 752 752 753 753 754 754 755 755 756 756 757 757 758 758 759 759 760 760 761 761 762 762 763 763 764 764 765 765 766 766 767 767 768 768 769 769 770 770 771 771 772 772 773 773 774 774 775 775 776 776 777 777 778 778 779 779 780 780 781 781 782 782 783 783 784 784 785 785 786 786 787 787 788 788 789 789 790 790 791 791 792 792 793 793 794 794 795 795 796 796 797 797 798 798 799 799 800 800 801 801 802 802 803 803 804 804 805 805 806 806 807 807 808 808 809 809 810 810 811 811 812 812 813 813 814 814 815 815 816 816 817 817 818 818 819 819 820 820 821 821 822 822 823 823 824 824 825 825 826 826 827 827 828 828 829 829 830 830 831 831 832 832 833 833 834 834 835 835 836 836 837 837 838 838 839 839 840 840 841 841 842 842 843 843 844 844 845 845 846 846 847 847 848 848 849 849 850 850 851 851 852 852 853 853 854 854 855 855 856 856 857 857 858 858 859 859 860 860 861 861 862 862 863 863 864 864 865 865 866 866 867 867 868 868 869 869 870 870 871 871 872 872 873 873 874 874 875 875 876 876 877 877 878 878 879 879 880 880 881 881 882 882 883 883 884 884 885 885 886 886 887 887 888 888 889 889 890 890 891 891 892 892 893 893 894 894 895 895 896 896 897 897 898 898 899 899 900 900 901 901 902 902 903 903 904 904 905 905 906 906 907 907 908 908 909 909 910 910 911 911 912 912 913 913 914 914 915 915 916 916 917 917 918 918 919 919 920 920 921 921 922 922 923 923 924 924 925 925 926 926 927 927 928 928 929 929 930 930 931 931 932 932 933 933 934 934 935 935 936 936 937 937 938 938 939 939 940 940 941 941 942 942 943 943 944 944 945 945 946 946 947 947 948 948 949 949 950 950 951 951 952 952 953 953 954 954 955 955 956 956 957 957 958 958 959 959 960 960 961 961 962 962 963 963 964 964 965 965 966 966 967 967 968 968 969 969 970 970 971 971 972 972 973 973 974 974 975 975 976 976 977 977 978 978 979 979 980 980 981 981 982 982 983 983 984 984 985 985 986 986 987 987 988 988 989 989 990 990 991 991 992 992 993 993 994 994 995 995 996 996 997 997 998 998 999 999 1000 1000	

第488図 平安時代住居跡時期別区分表1 (10世紀前半)

III まとめと考察

住居	瓦軸陶器・土師器	須恵器
10 C後半		

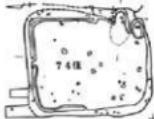
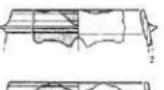
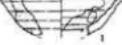
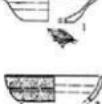
第489図 平安時代住居跡時期別区分表2（10世紀後半）

16. 平安時代の集落変遷について

住居	10世紀後半	灰釉陶器・土師器	須恵器

第490図 平安時代住居跡時期別区分表3（10世紀後半）

III まとめと考察

住居	灰軸陶器・土器器	須恵器
10 C後半		   
		   
		
		 
		 
		  

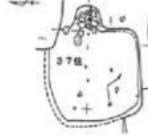
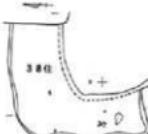
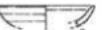
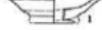
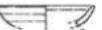
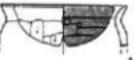
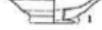
第491図 平安時代住居跡時期別区分表4 (10世紀後半)

16. 平安時代の集落変遷について

住居	10世紀後半	灰釉陶器・土師器	酒甕器

第492図 平安時代住居跡時期別区分表 5 (10世紀後半)

III まとめと考察

住居	灰軸陶器・土器器	鏡器
     	<p>10 世紀後半</p>            	      

第493図 平安時代住居跡時期別区分表 6 (10世紀後半)

16. 平安時代の集落変遷について

住居		土器類	須恵器
	10 C後半		

第494図 平安時代住居跡時期別区分表7 (10世紀後半)

III まとめと考察

住居		土器		須恵器
	10 世紀後半	1 2 3		1 2 3
4.10 2.5E 2.2E 6.8E 6.6E 1		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 289 290 291 292 293 294 295 295 296 297 298 299 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 389 390 391 392 393 394 395 395 396 397 398 399 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 489 490 491 492 493 494 495 495 496 497 498 499 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 589 590 591 592 593 594 595 595 596 597 598 599 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 689 690 691 692 693 694 695 695 696 697 698 699 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 789 790 791 792 793 794 795 795 796 797 798 799 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 889 890 891 892 893 894 895 895 896 897 898 899 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 989 990 991 992 993 994 995 995 996 997 998 998 999 999 1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1009 1010 1011 1012 1013 1014 1015 1016 1017 1018 1019 1019 1020 1021 1022 1023 1024 1025 1026 1027 1028 1029 1029 1030 1031 1032 1033 1034 1035 1036 1037 1038 1039 1039 1040 1041 1042 1043 1044 1045 1046 1047 1048 1049 1049 1050 1051 1052 1053 1054 1055 1056 1057 1058 1059 1059 1060 1061 1062 1063 1064 1065 1066 1067 1068 1069 1069 1070 1071 1072 1073 1074 1075 1076 1077 1078 1079 1079 1080 1081 1082 1083 1084 1085 1086 1087 1088 1089 1089 1090 1091 1092 1093 1094 1095 1095 1096 1097 1098 1098 1099 1099 1100 1101 1102 1103 1104 1105 1106 1107 1108 1109 1109 1110 1111 1112 1113 1114 1115 1116 1117 1118 1119 1119 1120 1121 1122 1123 1124 1125 1126 1127 1128 1129 1129 1130 1131 1132 1133 1134 1135 1136 1137 1138 1139 1139 1140 1141 1142 1143 1144 1145 1146 1147 1148 1149 1149 1150 1151 1152 1153 1154 1155 1156 1157 1158 1159 1159 1160 1161 1162 1163 1164 1165 1166 1167 1168 1169 1169 1170 1171 1172 1173 1174 1175 1176 1177 1178 1179 1179 1180 1181 1182 1183 1184 1185 1186 1187 1188 1189 1189 1190 1191 1192 1193 1194 1195 1195 1196 1197 1198 1198 1199 1199 1200 1201 1202 1203 1204 1205 1206 1207 1208 1209 1209 1210 1211 1212 1213 1214 1215 1216 1217 1218 1219 1219 1220 1221 1222 1223 1224 1225 1226 1227 1228 1229 1229 1230 1231 1232 1233 1234 1235 1236 1237 1238 1239 1239 1240 1241 1242 1243 1244 1245 1246 1247 1248 1249 1249 1250 1251 1252 1253 1254 1255 1256 1257 1258 1259 1259 1260 1261 1262 1263 1264 1265 1266 1267 1268 1269 1269 1270 1271 1272 1273 1274 1275 1276 1277 1278 1279 1279 1280 1281 1282 1283 1284 1285 1286 1287 1288 1289 1289 1290 1291 1292 1293 1294 1295 1295 1296 1297 1298 1298 1299 1299 1300 1301 1302 1303 1304 1305 1306 1307 1308 1309 1309 1310 1311 1312 1313 1314 1315 1316 1317 1318 1319 1319 1320 1321 1322 1323 1324 1325 1326 1327 1328 1329 1329 1330 1331 1332 1333 1334 1335 1336 1337 1338 1339 1339 1340 1341 1342 1343 1344 1345 1346 1347 1348 1349 1349 1350 1351 1352 1353 1354 1355 1356 1357 1358 1359 1359 1360 1361 1362 1363 1364 1365 1366 1367 1368 1369 1369 1370 1371 1372 1373 1374 1375 1376 1377 1378 1379 1379 1380 1381 1382 1383 1384 1385 1386 1387 1388 1389 1389 1390 1391 1392 1393 1394 1395 1395 1396 1397 1398 1398 1399 1399 1400 1401 1402 1403 1404 1405 1406 1407 1408 1409 1409 1410 1411 1412 1413 1414 1415 1416 1417 1418 1419 1419 1420 1421 1422 1423 1424 1425 1426 1427 1428 1429 1429 1430 1431 1432 1433 1434 1435 1436 1437 1438 1439 1439 1440 1441 1442 1443 1444 1445 1446 1447 1448 1449 1449 1450 1451 1452 1453 1454 1455 1456 1457 1458 1459 1459 1460 1461 1462 1463 1464 1465 1466 1467 1468 1469 1469 1470 1471 1472 1473 1474 1475 1476 1477 1478 1479 1479 1480 1481 1482 1483 1484 1485 1486 1487 1488 1489 1489 1490 1491 1492 1493 1494 1495 1495 1496 1497 1498 1498 1499 1499 1500 1501 1502 1503 1504 1505 1506 1507 1508 1509 1509 1510 1511 1512 1513 1514 1515 1516 1517 1518 1519 1519 1520 1521 1522 1523 1524 1525 1526 1527 1528 1529 1529 1530 1531 1532 1533 1534 1535 1536 1537 1538 1539 1539 1540 1541 1542 1543 1544 1545 1546 1547 1548 1549 1549 1550 1551 1552 1553 1554 1555 1556 1557 1558 1559 1559 1560 1561 1562 1563 1564 1565 1566 1567 1568 1569 1569 1570 1571 1572 1573 1574 1575 1576 1577 1578 1579 1579 1580 1581 1582 1583 1584 1585 1586 1587 1588 1589 1589 1590 1591 1592 1593 1594 1595 1595 1596 1597 1598 1598 1599 1599 1600 1601 1602 1603 1604 1605 1606 1607 1608 1609 1609 1610 1611 1612 1613 1614 1615 1616 1617 1618 1619 1619 1620 1621 1622 1623 1624 1625 1626 1627 1628 1629 1629 1630 1631 1632 1633 1634 1635 1636 1637 1638 1639 1639 1640 1641 1642 1643 1644 1645 1646 1647 1648 1649 1649 1650 1651 1652 1653 1654 1655 1656 1657 1658 1659 1659 1660 1661 1662 1663 1664 1665 1666 1667 1668 1669 1669 1670 1671 1672 1673 1674 1675 1676 1677 1678 1679 1679 1680 1681 1682 1683 1684 1685 1686 1687 1688 1689 1689 1690 1691 1692 1693 1694 1695 1695 1696 1697 1698 1698 1699 1699 1700 1701 1702 1703 1704 1705 1706 1707 1708 1709 1709 1710 1711 1712 1713 1714 1715 1716 1717 1718 1719 1719 1720 1721 1722 1723 1724 1725 1726 1727 1728 1729 1729 1730 1731 1732 1733 1734 1735 1736 1737 1738 1739 1739 1740 1741 1742 1743 1744 1745 1746 1747 1748 1749 1749 1750 1751 1752 1753 1754 1755 1756 1757 1758 1759 1759 1760 1761 1762 1763 1764 1765 1766 1767 1768 1769 1769 1770 1771 1772 1773 1774 1775 1776 1777 1778 1779 1779 1780 1781 1782 1783 1784 1785 1786 1787 1788 1789 1789 1790 1791 1792 1793 1794 1795 1795 1796 1797 1798 1798 1799 1799 1800 1801 1802 1803 1804 1805 1806 1807 1808 1809 1809 1810 1811 1812 1813 1814 1815 1816 1817 1818 1819 1819 1820 1821 1822 1823 1824 1825 1826 1827 1828 1829 1829 1830 1831 1832 1833 1834 1835 1836 1837 1838 1839 1839 1840 1841 1842 1843 1844 1845 1846 1847 1848 1849 1849 1850 1851 1852 1853 1854 1855 1856 1857 1858 1859 1859 1860 1861 1862 1863 1864 1865 1866 1867 1868 1869 1869 1870 1871 1872 1873 1874 1875 1876 1877 1878 1879 1879 1880 1881 1882 1883 1884 1885 1886 1887 1888 1889 1889 1890 1891 1892 1893 1894 1895 1895 1896 1897 1898 1898 1899 1899 1900 1901 1902 1903 1904 1905 1906 1907 1908 1909 1909 1910 1911 1912 1913 1914 1915 1916 1917 1918 1919 1919 1920 1921 1922 1923 1924 1925 1926 1927 1928 1929 1929 1930 1931 1932 1933 1934 1935 1936 1937 1938 1939 1939 1940 1941 1942 1943 1944 1945 1946 1947 1948 1949 1949 1950 1951 1952 1953 1954 1955 1956 1957 1958 1959 1959 1960 1961 1962 1963 1964 1965 1966 1967 1968 1969 1969 1970 1971 1972 1973 1974 1975 1976 1977 1978 1979 1979 1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1989		

住居		灰軸陶器・土器	須恵器
	11 世 紀 代		

第496図 平安時代住跡時期別区分表9（11世紀代）

III まとめと考察

住居		灰陶陶器・土師器	須恵器
	11 世 代		

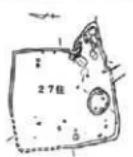
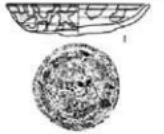
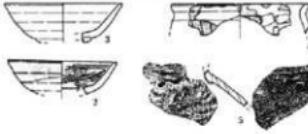
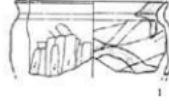
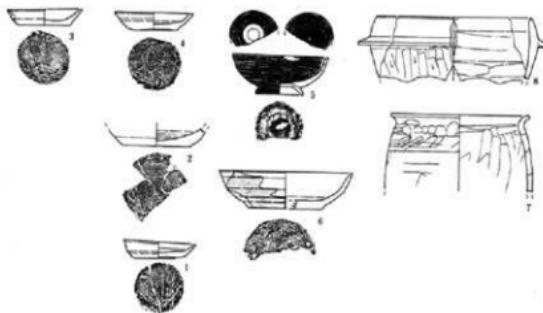
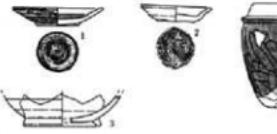
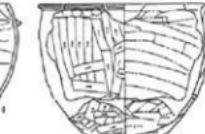
第497図 平安時代住居跡時期別区分表10 (11世紀代)

16. 平安時代の集落変遷について

住居		灰軸陶器・土器	須恵器
	11 世 代		

第498図 平安時代住居跡時期別区分表11（11世紀代）

III まとめと考察

住居	11世 紀代	灰陶陶器・土師器	須志器
			
			
			
			

第499図 平安時代住居跡時期別区分表12 (11世紀代)

17. 平安時代の土坑について

本遺跡の平安時代以降の土坑については、平面形と断面形の組み合わせにより何種類かに分類できたが、ここでは掘り方が浅く皿状を呈するものや小形なもの等を除き、それ以外をもう少しまとめて考えてみることにしたい。

ここではその平面形態に着目し改めて断面も見ることにしたい。まず、①平面形がほぼ円形を呈するものと②隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈するものに分類することができると思う。①では底面が平坦のものと丸みを持つものがあるが、掘り方は比較的浅く、断面皿状もしくはそれに近いものが多い。ところが②では底面が平坦なものが多く、壁はあまり開かず直立もしくはそれに近い状態で立ち上がるものが多く、断面は平底もしくは丸平底となるものが多い。掘り方は①よりもやや深い。

この中で注目したいのが、②の隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈するものである。大きさ的には長径1.5~2.0m以下で短径1.0m前後のものが多く、土壙墓の可能性も捨てきれないと思われる。平安時代の人々の土坑墓は県内でも10数例しか見つかっておらず、当時の墓制についてはほとんど判っていない。壁が焼けているり、焼土や炭が入っていないもので副葬品がでてきた土坑について土壙墓として取り扱っている例が多く、実際に骨が出てきたと言う例はまだ知られていないようと思われる。代表的なものとしては清里・長久保遺跡1号土壙墓や下東西SZ16土壙墓、下佐野遺跡59号土壙墓・113号土壙墓、芳賀東部団地遺跡F182号土壙墓、国分寺中間地域G区第7号土壙墓、同第8号土壙墓、同G区第7号土壙墓、荒砥北部遺跡群1号土壙墓、空沢遺跡HD-6号土壙墓、金古北十三町遺跡11区1号土壙墓などがある。これらの土壙墓は平面形は隅丸長方形を呈し、規模的には長径が1.5~2.0m以下で短径1.0m前後のものが多く、本遺跡で検出された②の土坑群と一致する。国分寺中間地域G区第7号土壙墓の場合には底面に木炭を敷き詰めており、日高遺跡51号土壙

墓の場合には棺床に丸太材を敷き、下佐野遺跡113号土坑墓の場合には川原石の石敷きを施し、金古北十三町遺跡11区1号土壙墓の場合には底面に6個の石を置き、その上場を同じレベルにし、棺を安定させたものと思われる。これらの土壙墓の主軸はその大半が南北を向いており、頭がどちらを向くかは別にしても埋葬時に一定の方向を意識したことが伺える。金古北十三町遺跡11区1号土壙墓の例のように須恵器碗の完形品が1点出ているところが頭であるとすれば北枕であったことになる。時期的には10世紀の半ばと推定され、本遺跡の②の土坑群に近似した時期のものである。こうした土壙墓は県内で検出されるのはその遺物から9世紀の後半から10世紀代のものがほとんどと考えられている。

清里・長久保遺跡1号土壙墓では灰釉・綠釉陶器、下佐野遺跡59・113号土壙墓、日高遺跡51号土壙墓、芳賀東部団地遺跡F182号土壙墓、国分寺中間地域G区7号土壙墓などでは灰釉陶器が出土しており、当時かなり貴重なものが副葬されている。その一方で金古北十三町遺跡11区1号土壙墓や空沢遺跡HD-6号土壙墓、国分寺中間地域D区第8号土壙墓のように日常一般的に使用するような須恵器や土師器の椀・杯・皿といったものを副葬している例もある。また、金古北十三町遺跡12区1号土坑のように11区1号土壙墓と規模や深さ、主軸の方向性まで類似するのにまったく副葬品のない例もある。これらの差は当時における貧富の差や階層の差や大人と子供の差、男女の差等のなんらかの差を示すものか、現在は残っていないか有機質で腐ってしまうもの、たとえば漆器等が入れられていたのかもしれない。単純に今我々が調査して何も出てこないからといって何も入れられていなかったとか、貧しい人の墓だとかということは言えないのではなかろうかと思われる。類例としては何も出てこない例の方が圧倒的に多いのでそう考えられてしまうのであろうが、その点には注意を払っておく必要があろう。何も出てこないと墓かどうか決めかねることが多いのも事実であるが。

III まとめと考察

本遺跡の場合には遺物はほとんどの土坑で時期判定に使用出来るようなものはあまりなかったが、39・41・65・70号土坑で羽釜や須恵器碗・灰釉陶器碗等の破片が検出された。それ以外に遺物の大半を占めるものは讃文時代の土器・石器等であった。

本遺跡では丸方形の土坑は住居跡との位置関係を見ると住居跡のないところに作られていることが分かる。しかし、住居とはそれほど遠くには離れていない。しかも集落内のある部分にまとまる傾向が見えるので、一定の場所をなんらかの方法で囲い、居住する場所とは分けていた可能性は考えられる。これらの土坑が墓壙であるとすれば、その場所が墓域となる。

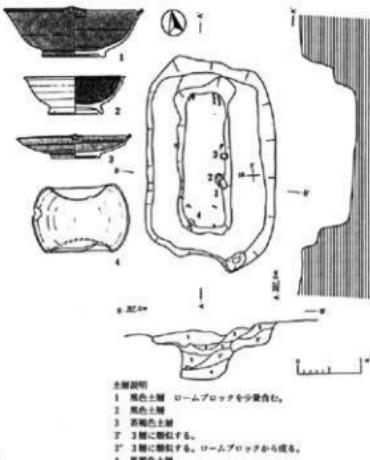
今後は遺物の出土する墓壙とそうでない土坑との比較検討を重ね、遺物は出ないけれども墓壙と推量されるものを抽出し、研究することも必要であろう。



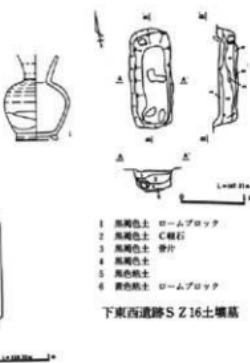
第501図 群馬県内平安時代土壙基

	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀
前	前	前	前	前
中	中	中	中	中
後	後	後	後	後
有蓋短頸壺使用火葬墓	—	—	—	—
日常雜器転用骨器使用火葬墓	—	—	—	—
土葬土壤基	—	—	—	—
火葬土壤基	—	—	—	—
石製骨器使用火葬墓	—	—	—	—

第500図 上野国の古代墓制変遷関係図(津金澤1986)

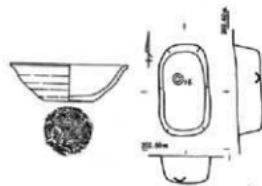


清里・長久保遺跡1号土壙基



下東西道路S Z16土壙基

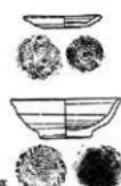
国分寺中間地D区第8号土壙基



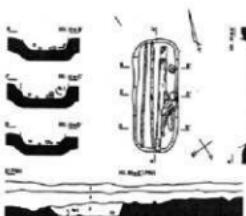
空沢遺跡II D-6号土壤墓



国分寺中間地域D区第6号土壤墓



御山遺跡 石室土塗出土壤墓



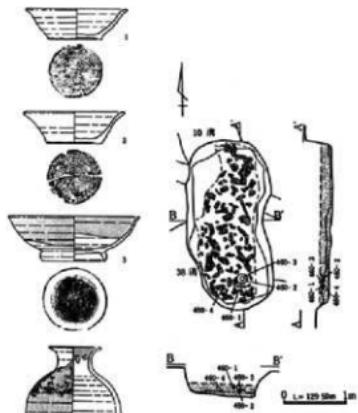
- 1 黒褐色土層 砂質土。上面は平安水頭面で、下方はその耕作開墾土層。(10~12世紀前半までの開墾土層)
- 2 黄褐色土層 砂質土。柱穴は砂質土層が最も多く、水の貯留を妨げない。(12世紀末~13世紀初頭の下層)
- 3 反転的土層 砂質土。地山(基盤)の赤褐色シート岩のブロックが多く含み、人為操作を感じさせる。
- 4 塗覆的土層 砂質土。3より黒色層が強く、有機質の多さを感じさせる。
- 5 深褐色土層 シルト土。

* 1~2の範囲は余り明確でないが、3~4の範囲は明確。

日高遺跡51号土壤墓



下佐野遺跡7区13号土壤



国分寺中間地域G区第7号土壤墓



第502図 群馬県内平安時代土壤墓 2

18. 鉄器について

鉄器については、この遺跡では鉄釘9点や刀子9点の他に鉄鎌8点、紡錘車1点、不明1点、近世の火打ち金1点計29点を図示した。近世の火打ち金1点を除く平安時代の鉄器の割合を%で示すと鉄釘32.1%、刀子32.1%、鉄鎌28.6%、紡錘車3.6%、不明3.6%となる。鉄釘や刀子の割合が高いのはさほど他の集落の場合と違はないと思われるが、この遺跡では鉄鎌の割合が高いように思われる。

鉄釘については笠の部分があるものは1点のみであり、頭が幅広になるように敲き潰しているもの1点であった。それ以外は笠も先端も欠損したものであった。また、横に直角に曲がっているものも1点であった。断面形を見るとほとんどのものが方形であるが、第42号住出土の10は上部がやや丸くなっている。釘ではない可能性もある。本文中では紡錘車の心棒としたがやや太いので、鍛金具の中央の部分の可能性も考えられる。

刀子については平面形を見ると刃縁がやや内反りしているものが多く、かなり長い間大切に使っていたことがわかる。茎部分についてはかなり長いものが多いようである。

紡錘車58号住出土の20は径6cmの円板の中央に5mm程の孔の開くものであり、中央の心棒は検出されなかった。

52号住出土の15は羽釜の鉢状に反る鉄器であり、何かから剥がれたように見える特徴的な形態をとるものであるが、全体としてどういう形態をしていたのかは不明である。また、被熱を受け焼けているのも特徴的である。

鉄鎌は形態的には平面形は長三角形もしくは柳葉形のものが多く、逆刺のあるものと先が二つに分かれる雁股形のものはそれぞれ1点のみであった。先端が極わずかに反っているものが多く、それが土中で銷びたために曲がった可能性も否定できないが、もしかしたら使用したために曲がったのではないかと思われる。また、頸部の長さについてはそれぞれ

違うものの、頭の形態についてはすべて台形であり、その点については共通している。茎部については欠損しているものも多いが、残っているものから推定するとかなり長いものが多いようである。

E区9-31グリッド出土の27は断面形を見ると下端が部厚くなっている。また平面形を見ると下縁がやや被打っているのがわかる。さらに左端は細くなっている。中央に最大幅がされている。下縁の波は使用した際にできる反り返りであり、火打ち金と考えられる。グリッド出土であるので時期的には明確ではないが、本遺跡では若干の近世の陶磁器等も出土しているので、近世と考えた。

平成7年度調査部分でも平安時代の住居跡から鉄鎌が出土しており、この周辺を含めるとかなりの数の鉄鎌がまだ埋蔵されている可能性もある。鉄鎌が多いということが時期的な特徴なのか、それとも地域性の違いによるものなのか、今ははっきりとさせることはできなかった。今後周辺地域の平安時代の鉄鎌を集成し分析する必要があると思われる。

最後に平安時代の磨石・敲石・凹石及び砥石等の鉄器と関連した石器について若干触れておきたい。この時期のものは一見したところは纏文時代のものとなんら変わることはない。敲いてあたり、磨つてあたり、敲きが集中すれば凹みとなる。石材は現在にも繋がる砥石などの流紋岩製の比較的小形の砥石も出土しているが、大形品は粗粒輝石安山岩などの粗い石が多く用いられており、その点についても纏文時代のものと類似している。砥石はその対象物の形をトレイスするから鉄器を研いだ時の傷と石器を研いだ時の傷には明らかに違いが認められる。更によく見るとその表面には鉄鎌が付いていることがある。研ぎ傷の上に鎌が付着していれば砥石と考えてまず間違いないと思われる。また、調査している時に道具の刃先が当たればそこが銷びることがある。それと鉄器を加工する時に敲いたものとは似た状態になることがあるが、よく観察すればその判別は差程難しくはない。傷と鎌の状態で判断するのが一番適切と思われる。

引用参考文献

- 神田考平1886「太古石器考」
島居龍藏1924「源氏史」第一卷
大野豊外1906「石斧の形式について」『東京人類学会雑誌』21-24
大野豊外1907「打製石斧の形式について」『東京人類学会雑誌』22-25
大山一柏1927「神奈川県新磯村字勝板遺物包含地調査報告書」『史前研究会小報』第1号
奥田成・岡田謙・野村一郎1941「紅須崎ヤミ族の農業」『大南洋・文化と農業』太平洋協会編
鹿野忠雄1946「紅須崎ヤミ族と石器」『東南亞洲民族学先史学研究』矢島書房
藤森栄一1948「日本先史遺跡の諸問題」
坂田光1964「群馬県・古巣遺跡の中期鐵文化層」「下越考古学」1 下越考古学研究会
松本信正・加藤史郎1968「手斧跡考」「考古学研究」15-1 考古学研究会
野村陽一郎1969「紅須崎ヤミ族の経済的および社会的構造に関する研究」『駒澤大学農業部農業経済学研究室研究集録』第1号
藤森栄一1970「鶴文農島」学生社
白石浩之1970「日野吹上遺跡」日野市吹上遺跡調査会
佐々木公明1971「福井以前」日本放送出版協会
西村正衛1972「阿王台式土器編年研究概要」「早稲田大学研究科紀要」18
群馬県教育委員会1973「群馬県遺跡地図」
芦藤基生1974「平山遺跡」東京西線及び八王子変電所遺跡調査会
佐藤達夫1974「土器型式の実態—五葉ケ台式と勝坂式の開一」「日本考古学の現状と課題」
小田静夫1976「鶴文中期の打製石斧」「ドルメン」10 JICC 出版局
小林公明1977「鶴文中期八ヶ岳南麓における石器」「信濃」24-4
麻原・疋他1978「F,竹沼跡」昭和52年度発掘調査概要 群馬県教育委員会
大塚昌彦他1978「笠置遺跡」茨城市教育委員会
武田雄六・小林公明他1978「曾利・長野原富士見町教育委員会
芦藤基生他1978「貫井小金井市文化財調査報告書」小金井市教育委員会
戸沢充則1979「鶴文農耕論」「日本考古学を学ぶ」2 有斐閣選書
森山谷造1980「三原田遺跡(住居跡)」「群馬県企業局
中島宏1980「伊勢坂・東光寺裏」埼玉県遺跡発掘調査報告書第26集
岩手県教育委員会・岡崎透工事同人1980「西田遺跡」岩手県文化財調査報告書第51集東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書VII
能登健1981「阿玉台式土器」「鶴文・土器大成2中期」
栗島義明他1982「南大坂遺跡」寄居町教育委員会
松村和男1982「打製石斧」について「下南原」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第8集
宮坂光昭1982「鶴文中期鉄耕論」「手斧考吉字」1 雄山閣
赤山容造1982「堅穴住居」「鶴文化の研究」8 雄山閣
青木秀雄・西井幸雄・松村和男他1983「前原遺跡」宮代町文化財調査報告書第1集
市川修1983「啄屋・北坂遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第25集
鈴木敏昭・松村和男他1983「台耕地(1)」「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第27集
芦藤基生1983「打製石斧研究の現状」「信濃」35-4
小池聰・成瀬弘司・山口重志・千葉啓宏1984「打製石斧について」「自由学園南遺跡」自由学園
戸沢光則1983「鶴文鼎嶺」「鶴文化の研究」2 雄山閣
鈴木次郎1983「打製石斧」「鶴文化の研究」7 雄山閣
栗原文麿1984「大野露外遺跡」「鶴文化の研究」10 雄山閣
坂井隆他1984「熊の堂第1田地区、兩叢遺跡」飼群馬県埋蔵文化財調査事業団
野口一寿1984「塙尻市鏡山遺跡第1号住居址出土器とその類型の位置付け」「中部高地の考古学III」長野県考古学会
坂口清二・西井幸雄他1985「北厚屋(II)」「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第48集
多摩市教育委員会・多摩市遺跡調査会1985「和田・百草遺跡群・落川南遺跡」多摩市埋蔵文化財調査報告書8
石室和則1986「鶴文時代中期中葉の住居形態」「研究紀要」埼玉県埋蔵文化財調査事業団
坂口一・三浦京子1986「奈良・平安時代の土器の編年」「群馬県史研究」24 群馬県史編纂委員会
川本清行1986「打製石斧の分析」「古代」81早稲田大学考古学会
多摩市教育委員会他1988「和田・百草遺跡群」「多摩市埋蔵文化財調査報告10
眞下高幸・松村和男他1986「下原老遺跡」「群馬県教育委員会
菊池実他1986「三後川遺跡・十二原遺跡II」「飼群馬県埋蔵文化財調査事業団
相田建史1986「清里・長久保遺跡」「飼群馬県埋蔵文化財調査事業団
石室和則・西井幸雄他1986「丹波塚遺跡—鶴文時代—」「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集
麻生敏隆・木津博明・桜阿正信1986「上野瀬分僧寺・尼寺中間地域(1)」「飼群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会
坂田雄二・小林真寿雄他1986「不動坂遺跡群II」「古河敷遺跡群II」「長野県東部町教育委員会
津田澤吉茂1986「古代の墓制」「群馬県史通史編2」原始古代2
榎本創也1987「福井縦・大野原」「飼群馬県埋蔵文化財調査報告第84集・飼群馬県振興事業団
大庭昌彦・小林良光・白石典之他1987「行幸田山遺跡」茨川市教育委員会・群馬県企業局・日本道路公团
山口逸弘1988「新巣遺跡出土器について」「十周年記念論文」飼群馬県埋蔵文化財調査事業団
赤山谷造1988「三原田遺跡」「群馬県史資料編1」—原始・古代—
下城正他1989「大平台遺跡」飼群馬県埋蔵文化財調査事業団

III まとめと考察

- 山口逸弘・松村和男他1989「房谷戸遺跡！」群馬県埋蔵文化財調査事業団
宮井英一・西井幸雄他1989「古井戸—繩文時代—」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第75集
外山政子1989「群馬県地域の土師器櫃について」群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要6
赤山容平・小宮俊久1990「三原田遺跡第二号」群馬県企画局
福島県教育委員会・財團法人福島県文化センター・日本道路公団1991「法正尻遺跡」東北横断自動車道遺跡調査報告11
外山政子1992「引かカマドかーもう一つのカマド構造についてー」群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要10
菊池実1993「繩文時代多孔石の研究」群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要11
瀧野巧1994「金竹西遺跡」吉岡町教育委員会
羽鳥政彦・松田光太郎1994「富士見地区遺跡群愛宕山遺跡初室古墳・愛宕遺跡・日向遺跡」富士見村教育委員会
岡安雅彦1994「風致にみる弥生土器焼成方法の可能性」三河考古第7号
瀧野巧1995「熊野・辺玉遺跡」吉岡町教育委員会
岡安雅彦1996「繩文土器焼成方法復原への実験的試み」古代学研究第133号
細野高伯他1996「鼻毛石中山遺跡」宮城村教育委員会
大工原豊1996「中野谷松原遺跡—繩文時代遺構解明—」安中横野平工芸団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 安中市教育委員会
堤謙・山口逸弘他1997「川原田遺跡」御代田町教育委員会
宮跡研究会編1997「古代の土師器生産と焼成遺跡」真隠社
大賀健他1997「下銀田遺跡」関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書 日本道路公団・群馬県教育委員会・下仁田町遺跡調査会
千田幸生・田口修他1997「新堀東源ヶ原遺跡」関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書 日本道路公団・群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会
長谷川福次1997「六反田遺跡II」北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書第22集 北橋村教育委員会
新治村教育委員会1998「布施上原遺跡」
竹内寛1999「瀬戸ヶ原遺跡（A区）」大間々町埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 大間々町教育委員会・大間々町歴史民俗館
長谷川福次1999「北橋村内遺跡Ⅱ」北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書第27集 北橋村教育委員会
山下敬信1998「群馬県の中崩中葉から後葉の様相」「中崩中葉から後葉の諸様相」第11回繩文セミナー 繩文セミナーの会
飯森康広他1998「古木本東遺跡・西園分岐田遺跡・金古北十三町遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団
井上慎也1999「砂押遺跡」「中野谷地区遺跡群発掘調査報告書5」安中市教育委員会
長谷川福次1999「燒町土器—特徴と分布・変遷、その役割—」土壤考古学会研究会1999年5月例会発表要旨
岡安雅彦1999「企画展「弥生の技術革新『野焼きから匂い焼きへ』—東日本を駆け抜けた土器焼成技術—」安城市歴史博物館開催

IV 自然科学分析

1. 沼南遺跡の地質調査

株式会社 古環境研究所 早田 勉

(1) はじめに

群馬県域には、浅間火山や榛名火山など多くの火山から噴出したテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が分布している。これらのテフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされているものがあり、遺跡においてそれら示標テフラとの層位関係を求ることによって、土層の形成堆積年代や造構・遺物の年代に関する資料を収集できるようになっている。そこで、良好な土層の断面が認められた沼南遺跡においても地質調査を行い、土層の層序および示標テフラの層位についての記載を行うことになった。

(2) 土層の層序

沼南遺跡では、基盤として岩屑なだれ堆積物が認められた。この岩屑なだれ堆積物（層厚30cm以上）は灰色を呈し、角礫（最大径18mm）を多く含む。この堆積物は、その岩相や後述する層位などから榛名山南東部の山体崩壊に由来する陣場岩屑なだれ堆積物（早田, 1991）に同定される。この堆積物の層位は、約1.9-2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1995, 未公表資料）の上位にあり、約1.7万年前に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石（As-OP1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1995）の下位にある（早田, 未公表資料）。

陣場岩屑なだれ堆積物の上位には、下位より褐色土（層厚23cm）、成層したテフラ層（層厚35cm）、黄褐色土（層厚23cm）、暗褐色土（層厚16cm）、黄色および灰色の軽石に富む暗褐色土（層厚18cm、軽石の最大径3mm）、黒褐色土（層厚16cm）、黄褐色砂質土（層厚52cm）、疊を含む灰色砂層（層厚24cm、疊の最大径2.2mm）、褐色土（層厚14cm）、暗褐色土（層厚34

1. 沼南遺跡の地質調査

cm）、黒褐色土（層厚5cm）、黄色軽石層（層厚4cm、軽石の最大径13mm）、下位の軽石層に由来する黄色軽石混じり黒褐色土（層厚4cm）、成層したテフラ層（層厚2cm）、黒褐色土（層厚17cm）、黒褐色砂質土（層厚12cm）、表土（層厚19cm）が認められる（図503）。

下位の成層したテフラ層は、下位より黄色軽石層（層厚18cm、軽石の最大径21mm、石質岩片の最大径2mm）、黄褐色細粒火山灰層（層厚0.4cm）、桃色粗粒火山灰層（層厚1cm）、橙色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、褐色細粒火山灰層（層厚3cm）、細かく成層した灰色粗粒火山灰層（層厚7cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚1cm）、桃色細粒火山灰層（層厚3cm）からなる。このテフラ層は、その層相から約1.3-1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992）に同定される。

As-YPの上位にある黄色および灰色の細粒軽石は、その岩相から約1.1万年前に浅間火山から噴出した浅間総社軽石（As-Sj, 早田, 1990）に由来すると考えられる。黄色軽石層は、その層相から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 新井, 1979）に同定される。なお本遺跡において、As-Sjの上位でAs-Cの下位にある砂層については、層位から総社砂層（早田, 1990）に対比されると考えられる。発掘調査では、この砂層のすぐ上位の褐色土から縄文時代早～前期の土器が、またその上位の暗褐色土から縄文時代中期の土器が各々検出されている。遺物との層位関係から、本遺跡における総社砂層の離水は、前橋市域に比較して若干早い可能性もある。

As-Cの上位の成層したテフラ層は、下部の桃紫色細粒火山灰層（層厚0.9cm）と上部の黄褐色細粒火山灰層（層厚0.8cm）から構成されている。このテフラ層は、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）に同定される。さらその上位の黒褐色砂質土中に含まれる粗粒火山灰は、層位から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 新井, 1979）

IV 自然科学分析

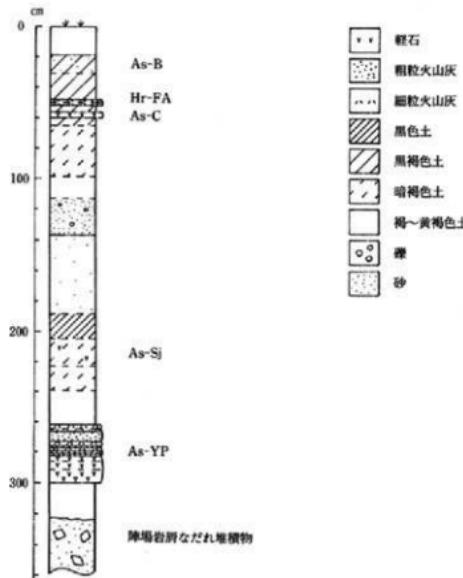
(3) 小 結

沼南遺跡において地質調査を行った結果、陣場岩屑なだれ堆積物（約1.7万年前）の上位に、下位より浅間板鼻黃色輕石（As-YP, 約1.3-1.4万年前）、浅間總社輕石（As-Sj, 約1.1万年前）、浅間C輕石（As-C,

4世紀中葉）、榛名二ツ岳渋川テフラ層（Hr-FA, 6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B, 1108年）の堆積が認められた。縄文時代早～中期の土器はAs-Sjの上位にある總社砂層のさらに上位で、As-Cの下位から検出されている。

文 獻

- 新井房夫（1962）「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学院編』10 p. 1-79.
 新井房夫（1979）「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』No.53 p.41-52.
 町田 洋・新井房夫（1976）「広域に分布する火山灰－始良 Ta 火山灰の発見とその意義」『科学』46 p.339-347.
 町田 洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス」東京大学出版会, 276p.
 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）「浅間火山、荒砥～前掛期のテフラ層序」『日本第四紀学会講演要旨集』No.14 p.69-70.
 板口 一（1986）「榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土器と須恵器」群馬県教育委員会編「荒砥古原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」p.103-119.
 早田 勉（1989）「6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害」『第四紀研究』27 p.297-312.
 早田 勉（1990）「群馬県の自然と風土」『群馬県史通史編』1 p.39-129.
 早田 勉（1995）「テフラからさくぐる浅間山の活動史」『御代田町誌 自然編』p.22-43.



第503図 沼南遺跡の地質柱状図

2. 沼南遺跡出土縄文土器の胎土分析

2. 沼南遺跡出土縄文土器の胎土分析

東京芸術大学保存科学教室 建石 敏

(1) はじめに

縄文時代中期前中葉の群馬県地域は、土器型式の吹きだまりともいべき複雑な型式組成を示すことが以前から知られた地域である（塙田1964、佐藤1974、赤山1991、山口1990・1992など）。筆者らは宮城村鼻毛石中山遺跡出土土器群の胎土分析をおこない、これらの事象と実際の人、土器、情報等の動きの相関に関する基礎的情報を蓄積したことがある（建石・大沢1996、建石1996）。本稿は、吉岡町沼南遺跡出土のほぼ同時期と考えられる土器群の胎土分析をおこない、同様の視点からの分析資料の蓄積を目指すものである。沼南遺跡出土の縄文時代中期前中葉土器群は、鼻毛石中山遺跡を含む周辺の当該期遺跡群と同様、勝坂式、焼町式、阿玉台式、大木式等、多様な土器群を含むものであるが、たとえば鼻毛石中山遺跡より利根川本流に近く立地する沼南遺跡の性格と出土土器の胎土の特徴の相関等、興味深い課題が山積する。

鼻毛石中山遺跡の研究では、土器胎土を粘土と混和材に分けた場合の粘土部分を主要な分析の対象としたが、本稿もこれを踏襲する。先の研究ではこの際、蛍光X線分析法による化学組成の検討と粉末X線回折法による鉱物組成の検討を採用したが、本稿では紙面や分析期間の都合もあり、先の研究で特に有効と考えた蛍光X線分析法を中心に入分析をおこない検討を加えることとした。

1. 資料（試料）

分析に供した個体を第504、505図、第1表に示す。分析個体は主に遭構出土遺物とし、しかも型式学的な検討が充分可能な完形・半完形土器を中心に、一部、重要と思われる破片資料を加えて選出した。個体の選出にあたっては、松村和男氏、山口逸弘氏の全面的な協力を得た。

2. 分析方法および結果

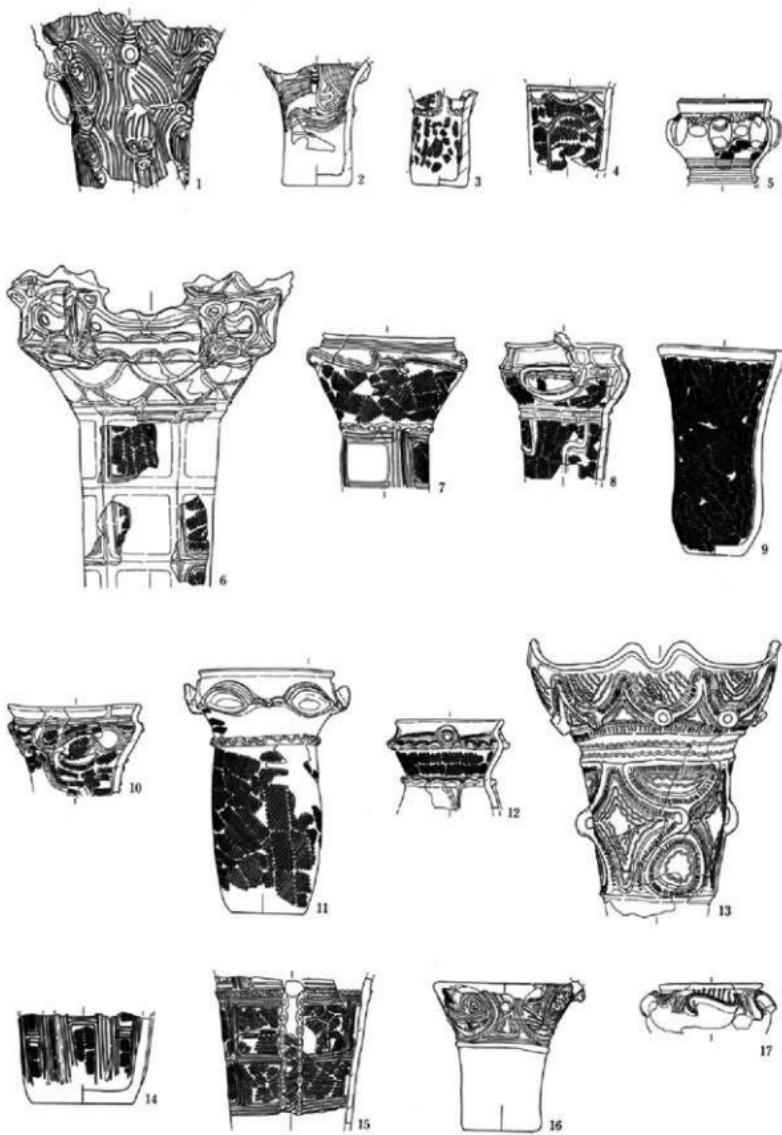
土器胎土の原料が、マトリクスである「粘土」部分（以下、粘土とよぶ）と、河川砂などの「混和材」部分（以下、混和材とよぶ）の混合土（以下、素地土とよぶ）であると仮定する。本研究は、胎土の自然的特徴を根拠に、土器の移動などに関する基礎的情報を蓄積することを主な目的とするが、特に粘土の由来を検討することで、この課題と取り組むことをとする。これは筆者らが、縄文土器製作技術の多様性、複雑性を認める一方で、粘土と混和材では、粘土の方が、より製作地付近から採取される可能性が高いと考えていることを前提としている。粘土の由来を検討することが、製作地を検討するうえでも有効であると考えたい。しかし、粘土と混和材を明瞭に識別、分離することは困難である。ここでは、肉眼で確認できる大型の鉱物粒子や岩片（混和材に由来する可能性が高い）を分析対象から極力除外することで問題に対応する。

2. 蛍光X線分析による化学組成の検討

2-1. 分析の原理と方法

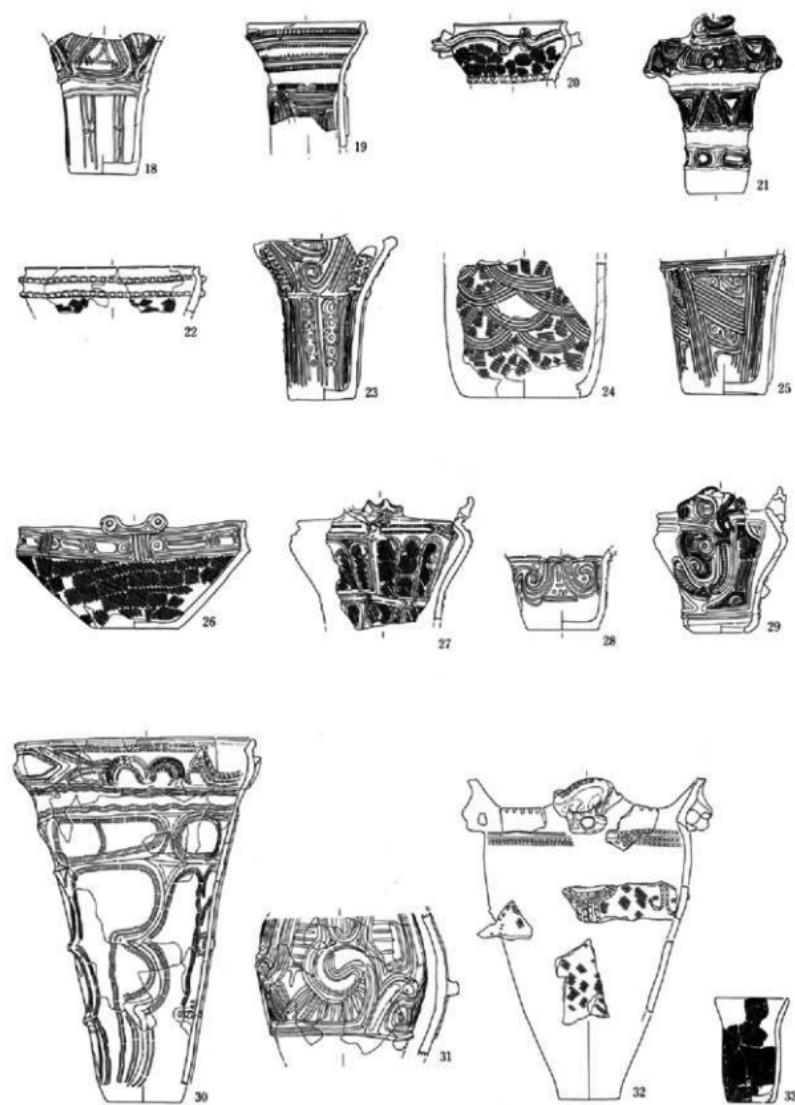
ある元素をその吸収端より短い波長のX線で励起すると、その元素の特性X線が発生する。これを蛍光X線といい、それぞれの原子に特有の波長およびエネルギーをもっている。蛍光X線の波長あるいはエネルギーとその強度を測定することによって、その元素を同定する方法を蛍光X線分析という。本研究では、蛍光X線のエネルギーとその強度を測定する方法（エネルギー分散型分析法）を採用した。

分析装置はセイコー電子工業製、エネルギー分散型 SEA-2001を用いた。分析条件は次の通りである。X線発生部のターゲット…Rh管球、電圧…15 kV、電流…80~170 μA（試料ごとに変更）、照射径…3 mm、検出器…Si(Li)半導体検出器、室内雰囲気…真空、測定時間…300秒。



第504図 胎土分析資料 1

2. 沼南遺跡出土繩文土器の胎土分析



第505図 胎土分析資料2

定量分析は、装置装備のファンダメンタルパラメーター法によった(標準試料なし)。試料を超音波洗浄し、乾燥させた後、分析に供した。

分析対象とした元素は Si、Ti、Al、Fe、Mg、Ca、K、Mn の 8 元素である。土器胎土の主成分元素組成は、岩石学の慣例にしたがい酸化物として表記した。本研究では標準試料を用いなかったため、定量性には優れないが、各試料間の比較や傾向を知るというレベルでは影響ないものと判断した。また、Na については本条件での定量が困難なため測定しなかった。

2-2. 胎土の不均一性の問題

過去の筆者らの研究と同様、本研究でも同一個体内の胎土の不均一性を考慮し、各個体ごとに測定位を変えて 5 回ずつ測定をおこなった。分析に供した 34 個体をすべて 5 回ずつ分析した後、個体ごとの結果のまとめをみると、170 回(5 回 × 34 個体)の測定結果をクラスター分析(最長距離法)に供した。この結果、5 回の測定結果が同一のクラスターを形成した個体については、5 回の平均値を計算し、これをその個体の主成分元素組成とした。5 回の測定結果がばらつく固体については、さらに 6 回目、7 回目の分析をおこない、5 つの測定結果が同一のクラスターを形成した段階で 5 回の平均値を計算し、これをその固体の主成分元素組成とした。本研究では 8 回以上の測定が必要だった固体はなかった。クラスター分析には、SPSS 社製多変量解析ソフト SPSS7.5.1J を使用した。

2-3. 蛍光 X 線分析の結果

蛍光 X 線分析の結果を第 1 表、第 506 図に示す。土器胎土の主要成分が粘土(風化鉱物)であると仮定し、その上で、粘土採取地域を考察する場合、理想的な岩石(風化による影響の少ないもの)との単純な比較という作業は好ましくない。特に化学組成の検討では、風化の過程で溶脱する成分を理解することが重要となる。

第 506 図は、比較的溶脱による影響が少ない(母岩の状況を反映する)と考えられる Fe を縦軸に、Si を横軸にとったものである。この図では各プロットが概ね負の相関を示すことが理解できる。ここには取り上げなかったが、新鮮な火成岩の分析結果もほぼ同一ライン上にのる。分析結果が左上にプロットされる試料ほど、アンザン岩質の母岩に由来する粘土であり、右下にプロットされる試料ほど、カコウ岩質の母岩に由来する粘土であると考えられる。

3. 考察—型式学的検討との相関—

3-1. 勝板式土器

勝板式に分類したものは、No.9、15、18、19、21、29、31 の 7 個体である。

勝板式は当該期の群馬県地域の主体的な土器群であるが、南関東地域や甲信地域の土器群とは多少異なる型式学的特徴を備える個体が優勢であることが知られている(山口 1992、小林他 1996 など)。また、阿玉台式や大木式に分類される個体の中に勝板式との折衷的特徴をみいだせるものも多い(たとえば No.13、6)。

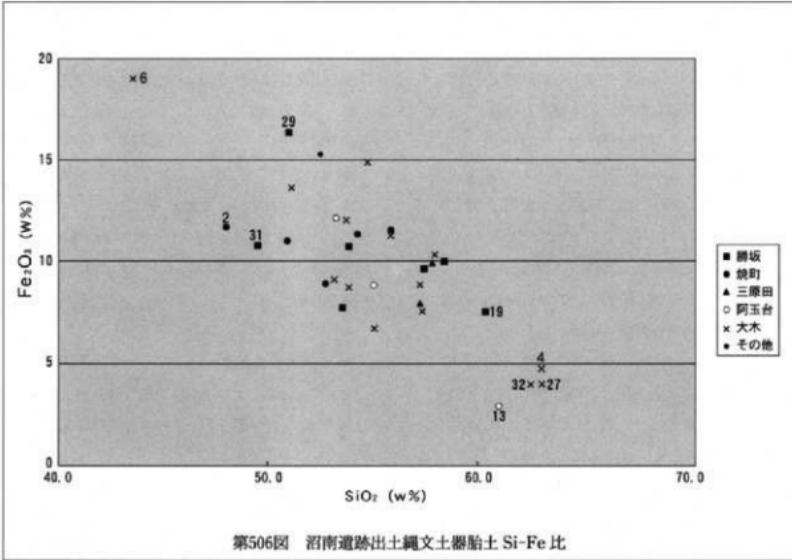
沼南遺跡出土の勝板式の分析結果は、概ねアンザン岩的な在地の地質の特徴と一致し、しかも分析試料中のほぼ中央を中心に分布する傾向がうかがえる。後述する焼窯(式)土器等と同様、分析に供した個体の多くが在地的な粘土で製作されている可能性を示唆するものである。

この中で他の勝板式と異なる胎土の傾向を示すものは塩基性よりの No.29、31、酸性よりの No.19 である。No.29 は、屈折底をもつ器形や把手の形状等、南関東大宮台地・武藏野台地以西の勝板 V 式と共に通する型式学的特徴を有する。No.31 は、膨張した筒型の器形や省略された隆線上の扱い等、南関東下総台地周辺の勝板 V 式と共に通する型式学的特徴を有する。南関東地域はアンザン岩より塩基性よりの火成岩であるゲンブ岩の特徴を備える富士山の地質学的影響の強い地域である。即断は出来ないが、これらの土器が南関東の各地域の粘土によって製作された可能性も

2. 沼南遺跡出土繩文土器の胎土分析

第1表 沼南遺跡出土繩文土器の主成分元素組成表 (W%)

分析No.	遺 横	遺構内No.	土 器 型 式	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃
1	92住	1	燒 町	1.7	30.0	53.1	0.7	1.3	1.0	0.1	12.1
2	92住	2	燒 町	1.6	34.3	47.9	0.7	2.3	1.0	0.5	11.7
3	92住	3	大 木 8 a	2.0	30.7	57.2	0.7	1.2	0.6	0.1	7.5
4	92住	4	大 木 8 a	2.0	27.1	62.9	1.3	0.8	0.7	0.5	4.7
5	104住	1	三 原 田	2.3	26.3	57.7	0.5	2.1	1.2	0.0	9.9
6	104住	2	大 木 8 a	0.3	34.0	43.5	0.5	1.6	1.0	0.1	19.0
7	116住	2	大 木 8 a	0.8	28.1	57.8	0.4	1.2	1.3	0.1	10.3
8	116住	3	大 木 8 a	0.7	27.1	54.6	0.8	0.5	1.4	0.1	14.8
9	129住	2	勝 払 後 半	1.1	28.1	58.3	0.5	0.7	0.7	0.5	10.0
10	129住	4	阿 玉 台 IV	0.8	31.4	53.1	0.6	0.4	1.5	0.1	12.1
11	129住	6	三 原 田	2.3	28.9	57.1	1.1	1.2	0.9	0.2	7.9
12	129住	10	大 木 ?	1.5	29.3	55.7	0.5	0.4	1.0	0.3	11.3
13	130住	1	阿 玉 台 III	2.2	30.6	60.9	1.4	0.7	1.2	0.0	2.8
14	103土坑	2	大 木 8 a	2.5	29.2	57.1	0.5	0.9	0.9	0.1	8.8
15	103土坑	3	勝 �扒 後 半	1.7	28.7	57.3	0.5	1.2	0.9	0.1	9.6
16	140土坑	1	燒 町	2.2	26.0	55.7	1.2	2.3	1.0	0.2	11.5
17	143土坑	1	大 木 8 a	2.5	32.6	53.0	0.5	1.1	0.8	0.1	9.1
18	161土坑	1	勝 扒 後 半	1.6	35.2	53.4	0.5	0.7	0.7	0.2	7.7
19	175土坑	1	勝 �扒 後 半	2.5	26.4	60.3	0.7	1.8	0.7	0.1	7.5
20	201土坑	1	大 木 8 a	2.0	33.1	53.7	0.3	1.3	0.7	0.1	8.7
21	203土坑	1	勝 扒 V	3.0	29.3	53.7	0.9	1.1	1.1	0.1	10.7
22	279土坑	1	大 木 8 a	2.1	34.2	54.9	0.5	0.8	0.8	0.1	6.7
23	280土坑	1	燒 町	1.4	33.8	52.6	0.6	1.8	0.8	0.1	8.9
24	284土坑	1	大 木 8 a	1.1	31.7	51.0	0.4	0.8	1.1	0.2	13.6
25	288土坑	1	燒 町	1.3	34.5	50.8	0.1	1.4	0.6	0.3	11.0
26	319土坑	1	大 木 8 a (浅鉢)	0.7	31.0	53.6	0.3	1.6	0.8	0.1	12.0
27	319土坑	2	大 木 8 a	1.8	28.5	62.9	1.1	0.9	0.8	0.0	3.9
28	429土坑	1	燒 町	4.4	26.5	54.1	0.9	1.5	1.1	0.2	11.3
29	172pit	1	勝 扒 V	0.1	20.8	50.9	1.5	7.9	2.4	0.1	16.3
30	Dt29	7	阿 玉 台 II	2.0	30.8	54.9	1.5	0.4	1.4	0.0	8.8
31	En36	1	勝 扒 V	2.0	35.3	49.4	0.2	1.4	0.8	0.1	10.8
32	ES34	1	大 木 8 a	1.6	28.7	62.4	1.0	0.8	1.4	0.3	3.9
33	遺構外	2	(ミニチュア)	2.8	24.4	52.4	1.2	1.0	2.0	1.1	15.2



第506図 沼南遺跡出土繩文土器胎土 Si-Fe 比

ある。No19は、ラッパ状の器形、口縁部の横走する文様要素の残存等、在地的な型式学的特徴を備えた個体と考えるが、周辺では具体的な類例は乏しい。胎土は他の勝坂式と比べ、酸性よりの異質な特徴を示す。ここではこれ以上の検討は控えたいが、今後は遺跡周辺にも酸性の強い地質が皆無ではないことを考慮する一方、(酸性の強い地質がよく知られている)北陸地域など、今回、積極的に類例を探さなかつた地域へも目を向けた総合的な検討が必要となろう。

3-2. 焼町(式)土器、三原田型土器

焼町(式)に分類したものは、No1、2、16、23、25、28の6個体、三原田型に分類したものは、No5、11の2個体である。

焼町(式)、三原田型いずれも群馬県西部地域の地域的な土器群として知られる。ただし、焼町(式)の方が分布が広く、浅間山西南麓にまで分布が及ぶ(むしろ長野県側に分布の中心があるとされる(堤1997など))。

沼南遺跡出土の焼町(式)、三原田型の分析結果は、概ねアンサン岩的な在地の地質の特徴と一致し、しかも分析試料中のほぼ中央を中心に分布する傾向がうかがえる。先述した勝坂式土器等と同様、分析に供した個体の多くが在地的な粘土で製作されている可能性を示唆するものである。

この中で他の焼町(式)、三原田型と異なる胎土の特徴を示すものは塩基性よりのNo2である。No2を型式学的に遺跡周辺の土器群の中で異質とみなすことには現状ではできない。勝坂式におけるNo19と同様、粘土の産地に関する議論は保留としたい。

今回の分析では、アンサン岩的性格という意味では同様の傾向を示す浅間山の東西(群馬県と長野県)での相違を指摘することが困難であることを指摘しておく必要があろう。また、同じ在地の土器群とはいえ、焼町(式)はより塩基性、三原田はより酸性によった胎土の傾向があることは注目される。

3-3. 阿玉台式土器

阿玉台式に分類したものは、No10、13、30の3個体である。

阿玉台式は当該地域では客体的な存在として知られ、特に後半段階である阿玉台III式、IV式期にはその傾向が顕著である。また前半段階である阿玉台I式、II式期の土器群には勝坂式との折衷的特徴を有する地域的な土器群が多く含まれていることが知られている(山口1990など)。

No10は、口唇が外半するキャリバー状の器形、横位S字状の口縁部文様意匠等に大木式と共通する特徴を有する。No30は、体部上半に横位展開する横円区画意匠等に勝坂式と共通する特徴を有する。これらの特徴は当該地域の阿玉台式の地域的特徴と一致する。両者はいずれもアンサン岩的な在地の地質の特徴と一致し、しかも分析試料中のほぼ中央を中心に分布する傾向がうかがえる。両者は細別時期が異なるが、先述した勝坂式、焼町(式)、三原田型の多くと同様、在地的な粘土で製作されている可能性を示唆するものである。

No13は、酸性よりの胎土の特徴を示す。隆線上の扱い、文様構成等に勝坂式と共通する特徴を有する。同様の土器群は当該地域より東側、たとえば茨城県南部・千葉県北部地域などで出土が知られる。茨城県南部・千葉県北部(特に現利根川下流域)の一般的な地質学的特徴としてカコウ岩的な酸性よりの傾向が知られるが、分析結果はこれとよく調和する。またNo13は、肉眼観察で多数の雲母類の大粒粒子が確認できるが、雲母類はカコウ岩の主要な造岩鉱物である。

3-4. 大木式土器

大木式に分類したものは、No3、4、6、7、8、10、14、17、20、22、24、26、27、32の14個体である。

今回出土した大木式の多くは大木8a式に分類されるもので、分析資料の多くもこの範疇である。ただ、大木8a式には地域的な変異型が多く含まれ、

2. 沼南遺跡出土縄文土器の胎土分析

当該地域では特にその傾向が顕著であることが知られている。大木8a式の地域的な変異の検討は、(大木8a式という枠組み自体の再検討も含めて)各地で推進されるべき重要な懸案でもある。

沼南遺跡出土の大木式の分析結果は、概ねアンザン岩的な在地の地質の特徴と一致し、しかも分析試料中のほぼ中央を中心に分布する傾向がうかがえる。先述した勝坂式土器、焼町式、三原田型の多くと同様、分析に供した個体の多くが在地的な粘土で製作されている可能性を示唆するものである。

この中で他の大木式と異なる胎土の特徴を示すものは塩基性よりのNo.6、酸性よりのNo.4、27、32である。No.6は、文様意匠等に勝坂式と共通する部分も認められるが、きわめて異質な型式学的特徴を有する個体である。同様の資料は北橘村道訓前遺跡での出土が知られるが、いまだ類例に乏しい。ここでは、具体的な粘土採取地の検討を控え、他の土器群と異なる胎土をもつことのみを指摘しておく。No.4、27、32は、連続弧状意匠(No.4)、L Rの単節縄文施文(No.27、32)、幅狭の楕円区画意匠(No.27)等、いずれも遺跡周辺より北東側、たとえば福島県・栃木県北部地域の大木式と共に通する特徴を有する。福島県・栃木県北部の一般的な地質学的特徴としてカコウ岩(またはリュウモン岩)的な酸性よりの傾向が知られるが、分析結果はこれとよく一致する。

鼻毛石中山遺跡の研究では、多くの大木式が在地

的な胎土の特徴を示したが、この点で沼南遺跡の大木式の在り方は異なる可能性がある。鼻毛石中山遺跡と沼南遺跡の比較では特に大木式に大きな相違が認められる。

(3) おわりに

今回の分析を終え、群馬県地域の縄文時代中期前中葉土器群の胎土分析結果を一つ重ねるという所期の目的は、概ね達成できたものと考える。本研究の成果や派生する課題を一言で表現することは困難であるが、最大の成果は、先の鼻毛石中山遺跡の研究の成果とは異なる人、モノ、情報の動きが沼南遺跡に認められる可能性が指摘できることであろう。詳細は先の考察にゆずるが、例えば大木式の在り方の相違に両遺跡の個性の一端が認められる。今後、他の分析を併せておこないながら沼南遺跡に関する情報をより豊かにする一方、周辺他遺跡に関する情報の蓄積を進めていきたい。

謝 詞

本研究を進めるにあたり、多くの方々のご協力を得た。特に松村和男氏、山口逸弘氏には分析資料の選出から分析結果の検討まで、あらゆる場面でご協力、ご教示をいただいた。野中麗奈氏には資料採取の際、ご協力をいただいた。記して感謝する次第である。

文 獻

- 赤山容造「どのようにして三原田式が生まれたか—半隠起線文手法の系統について—」『群馬県立歴史博物館紀要』12
小林謙一・建石徹・間間俊明1996「IV 2-1 土器」「鼻毛石中山遺跡」宮城村教育委員会
佐藤達夫1974「土器型式の実態—五領ヶ台式と勝坂式の同一」『日本考古学の現状と課題』吉川弘文館
建石徹1996「『縄文時代中期における土器の移動に関する基礎的研究—群馬県鼻毛石中山遺跡の分析を中心とする』」『土器考古』20
建石徹・大沢正人1996「V 鼻毛石中山遺跡の胎土分析」「鼻毛石中山遺跡」宮城村教育委員会
原田光1964「群馬県・新吾遺跡の中綱縄文土器」「下總考古学」1
山口逸弘1990「群馬県における阿玉台式の諸様相—新吾遺跡出土土器の分析を中心として—」『群馬県埋蔵文化財調査事業団 研究紀要』7
山口逸弘1992「新造式土器群の変容過程—利根川上流域を中心として—」『群馬県埋蔵文化財調査事業団 研究紀要』9

前橋伊香保線文化財調査事業団

沼南遺跡
(本文編)

(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

平成11年12月20日 印刷
平成11年12月25日 発行

編集・発行／財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 勢多郡北橘村大字下船田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社